



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2343号)

令和6年2月5日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ホタルイカ・ハタハタの来遊状況等について (調査船「たじま」による半中層トロール調査結果)

令和6年1月31日に浜坂沖で、漁業調査船「たじま」による漁場形成の確認と海洋観測およびトロール試験操業を実施しましたので結果を報告します。

1. 漁場形成

- ・当日のホタルイカ漁場は、浜坂沖から香住沖の水深225～240mにかけて認められました。(図1)
- ・濃密な漁場が形成されたため、今回は主漁場水深帯(230m付近)での操業は断念しました。

2. 海洋観測

- ・浜坂沖水深175、200、225、250mの各点で海洋観測と魚探の収録を行いました(図2、3)。
- ・温度が急激に変化する層(躍層)は35° 46' N以浅で強く引き締まり、水深160～180m付近で海底斜面に接していました。この結果4℃台の冷水が海底を水深180mまで覆っていました(図2)。

3. 操業トロール試験操業結果

- ・半中層トロール網(袖先間隔17m、網高さ8m、袋網16節、モジ網240経カバーネットあり)を使用しました。
- ・平均水深247mと178mの2か所で曳網しました(3ノット、30分、E曳き)。

〈ホタルイカ〉

- ・主漁場水深帯を外したにも関わらず、水深247mで190kgと1月としては最も多い入網がありました(表1)。
- ・平均外套背長^{*1}は48mm前後で、前回(1/18)とあまり変わらず、平年並みでした。(図4)。
- ・交接^{*2}済み個体もわずかに認められ、例年通り交接期(主に2月)を迎えつつあります。。

*1外套背長:イカの筒部分背側の長さ *2交接:メスがオスから精子を受け取ること

〈ハタハタ〉

- ・水深247mでは11kg/網の入網がありました(表1)。
- ・体長130～160mmの2歳魚が主体で、わずかながら1歳魚(同115mm未満)も認められました(図5)。1歳魚の入網尾数は一昨年急減しましたが、今年は一昨年、昨年をわずかに上回る水準で推移しています。

〈餌料生物〉

- ・両種の餌となる小型甲殻類は、カバーネットにより水深247mで前年並み程度に採集されました(表1)。今回はツノナシオキアミが主でした。

4. その他

今後も5月にかけて「たじま」による調査を予定しています。実施にあたっては、極力皆様の操業の妨げにならないよう注意しますので、調査へのご理解と、情報交換をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先: 兵庫県但馬水産技術センター (担当: 大谷)

TEL: 0796-36-0395 FAX: 0796-36-3684

email: nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ: <https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.html>

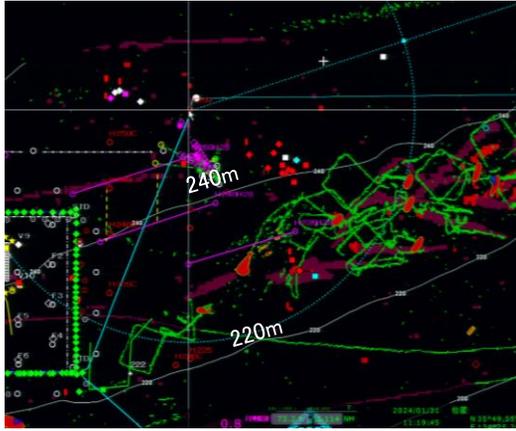
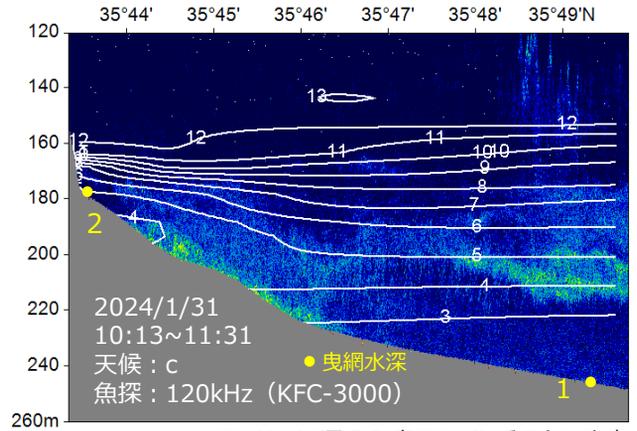


図1 ホタルイカ当業船操業状況(11:19時点)



※120m以深のみ表示していることに注意

図2 観測ラインの水溫鉛直断面図と魚探反応

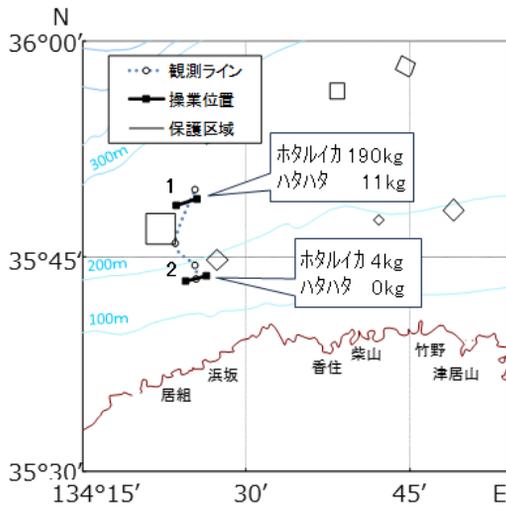


図3 調査海域図と魚種別入網量

表1 操業と入網物の詳細

調査年月日	2024/1/31		2023/1/31	
	浜坂沖		香住沖	
海域	浜坂沖		香住沖	
曳網回次	1	2	1	2
平均曳網水深(m)	247	178	245	223
曳網開始時刻	12:10	13:55	11:54	13:44
入網重量 (kg/網)	190.4	4.4	8.3	30.0
ホタルイカ	190.4	4.4	8.3	30.0
ハタハタ	10.8	0.0	0.2	0.6
ホタルイカトドキ	1.1	0.1	29.8	5.3
キュウリイ	0.0	0.3	0.0	3.0
オキアミ・ウミミ (カハ-ネット)	9.8	2.0	12.3	8.3

(参考；前年)

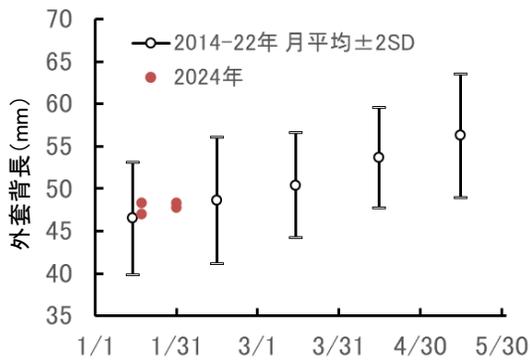


図4 ホタルイカの操業点別平均外套背長

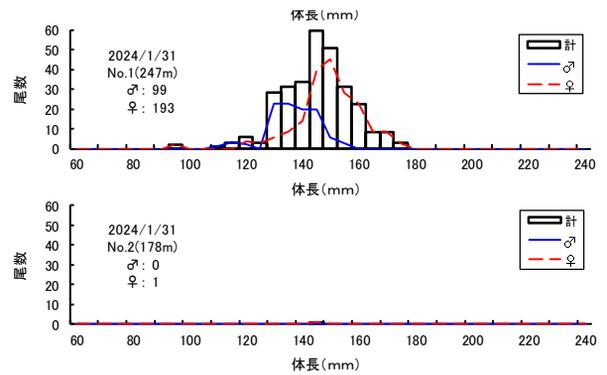


図5 ハタハタの体長組成